

謝罪

色

々な事でも、様々な人達が謝罪を要求されています。また頻繁に、謝罪する場面もテレビで見受けられます。それは昨今、特に多くなっているように感じます。しかし事によつては、謝罪している人達の他にも、その事で謝罪しなければならない人達がいるように思うこともあります。

い

じめがあつたと学校関係者が謝罪している場面を、テレビでよく見掛けます。学校や教育委員会も謝罪しなければならぬことであらうかと思いますが、はじめた当の本人や親達は一体どうしているのだろうかと思つてしまうのです。謝罪を受けた人達は、それで決して満足している訳ではないでしょう。謝罪の言葉を聞いて、口先だけとか心が籠もつていない等と言いながら、更に苛立っているように見えます。謝罪をさせ、相手を見下すような場合もあります。外に向けた「謝罪」が必要なこともあるでしょうが、求めて止まないものは、内なる深い「自省」ではないでしょうか。他者の「自省」の身を推察することは出来たとしても、確認することは出来ません。信じるより仕様が無いのです。

亡

き父が長い人生の中から得たこととして「騙された者よりも騙す者の方が一層哀れだ」と私に諭したことがありました。

それは、私が初月給をもらつて間もない頃のことでした。道を歩いていると車の中から手招きされ、スーツを買わないかと誘われたのです。話を聞くと、スーツを卸しに青森に来たが、会社に無断で三着だけ余分に持つてきているから、三着まとめて格安で売るといふのです。丁度、言われた金額が手持ちにあつたので、その場の勢いで私はスーツを買つてしまいました。早速、家に帰つて包みを開けて見ると、畳んだ表側だけは、まともに見えるのですが、中身は布切れという代物。

社会人としてスタートした頃の苦い経験でした。父の言葉はその時のもので、今も胸に深く刻まれています。騙した人達は、私にスーツを渡すと一目散に車を走らせて消えてしまったのですから、訴えることも謝罪を求めることも出来ませんでした。父の言葉に救われましたが、当初は馬鹿な自分を棚に上げて、暫くは悔しさが募りました。しかし、何時しかその人達に対して、謝罪よりも自省を望むようになりまし

謝

罪で、思い出すことがあります。十数年前のことです。教師を教師とも思わぬ言い振りとは不遜な態度の生徒を厳しく叱つたことがあり、その生徒の母親から謝罪を求められたのです。そのクレームはエスカレートし、教育委員会へ直訴、更に或る人物に依頼して威しともれるようなクレームを付け、仕舞には議員にまで怪文書を送りつけたのです。母親に依頼された人物は、「謝罪をすればそれで済む。早くしろ」と主張するのです。私は謝罪する気など毛頭ありませんでした。只、頼りになるべき所が頼りにならず、自費で弁護士に相談しました。教師は生徒や親と対峙することもありません。自分自身で謝罪しなければならぬと自覚したのならば、深く自省を行い心からの謝罪をしなければなりません。しかし、教育者として、また教育の場としてなすべき事をなしたと信じるのであるならば、軽々に謝罪するべきではありません。教える者と教わる者の立場が逆転したら、教育は成り立たないと思うからです。

件

の母親に、私は最後にこう言いました。「謝罪をして貰いたいの

は此方です。しかし謝罪はいりません。今回のことの猛省をお願いします」それでこの一件を、私は落着としました。

(元青森県立北斗高校校長)